



NEWS RELEASE

日本IR協議会
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-6-6 MIFビル9階
Tel 03-5259-2676(代表) Fax 03-5259-2677 http://www.jira.or.jp

第14回「IR優良企業賞」に10社

逆風下での着実な実践を評価

日本IR協議会（会長・澤部肇TDK会長）は、このほど2009年度IR優良企業賞受賞企業を決定いたしました。「IR優良企業賞」（審査委員長・野村證券金融経済研究所 海津政信チーフリサーチオフィサー）は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業を選び表彰することを目的としており、今年で14回目を迎えます。

今年の受賞企業には、以下のような特徴があります。

- 事業環境が厳しくても、IRを後退させず、向上に努めている
- 経営トップが戦略やビジョンの進捗状況を説明している
- 業界の先陣を切ってIRを推進する。個人投資家の高評価を得ている

海津審査委員長は、「経済危機で逆風が吹く中、グローバル企業としてIRを継続する姿勢や、これまで選定されていなかった業界でのIRのすそ野拡大なども重視した」と語っています。

審査対象は、日本IR協議会の会員企業のうち株式を公開している企業で、2009年の応募企業は335社となりました。受賞企業は下記のとおりです。IR優良企業大賞1社、IR優良企業賞6社、IR優良企業奨励賞2社、IR優良企業特別賞1社の合計10社でした。受賞企業の主な選定理由とこれまでの受賞歴は、別紙に記載しています。

IR優良企業大賞 受賞企業

キリンホールディングス 株式会社

IR優良企業賞 受賞企業（社名50音順）

エーザイ 株式会社

株式会社 資生堂

新日鉱ホールディングス 株式会社

三菱地所 株式会社

ユニ・チャーム 株式会社

株式会社 ローソン

IR優良企業特別賞 受賞企業

本田技研工業 株式会社（ホンダ）

IR優良企業奨励賞 受賞企業（社名50音順）

イー・アクセス 株式会社

シミック 株式会社

各賞の概要は下記の通りです

IR優良企業賞

日本IR協議会の会員でかつ、株式を公開している企業を対象に、毎年選定しています。

IR優良企業大賞

過去2回IR優良企業賞を受賞し、3回目も受賞に値すると評価された企業を表彰しています。2005年より表彰をスタートさせました。なお、受賞翌年から2年間は「IR優良企業賞」の対象から除外されます。

IR優良企業特別賞

IR優良企業賞に応募した企業のうち、継続的にIRのレベルを高めている、業界のリーダーとしてIRに積極的である、個人投資家向けIRの評価が高い——企業など、活動内容に特徴の見られる企業を表彰しています。2005年より表彰をスタートさせました。

IR優良企業奨励賞

IR優良企業賞に応募した企業のうち、新興市場・東証二部の上場企業、および東証一部上場企業であって新規に株式を公開後10年目以内の中小型株会社の中から表彰しています。2002年より表彰をスタートさせました。

審査方法は3段階で、下記のとおりです

- ① 応募企業が提出した「調査票」の結果を基にした第一次審査（186社が二次へ進出）
- ② 審査委員のうち、証券アナリスト、機関投資家、ジャーナリストなどの専門委員14名がIR優良企業対象企業150社、奨励賞対象企業36社を評価する第二次審査
- ③ 審査委員全員による第三次審査

表彰式は「IRカンファレンス2009」（12月16日（水）開催、於：六本木アカデミーヒルズ）で午前11時30分から開催する予定です。

問い合わせ先：日本IR協議会 事務局

TEL：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

担当：事務局長・首席研究員・佐藤、首席研究員・篠原、研究員・高際

日本IR協議会とは：1993年設立のIR普及を目的とする非営利団体。会員数は（平成21年10月末時点）で690、主な活動はIRの研修活動、調査・研究、企業間の交流など。

<https://www.jira.or.jp>

本ニュースリリースおよび審査委員や審査方法などの詳細は、
11月9日（月）12：30以降に、
日本IR協議会ウェブサイト <https://www.jira.or.jp> に掲載されます。

【別紙】受賞企業の主な選定理由と受賞歴

IR優良企業大賞 受賞企業

キリンホールディングス (99、00年 IR優良企業賞、06年 IR優良企業特別賞、大賞は初) 成長戦略が明確で、経営トップの実行力が高い。株主・投資家に配慮した説明や、課題への対応を踏まえた計画も評価されている。IR部門は株主・投資家とのコミュニケーションに努め、それが経営にフィードバックされている。資料やIRサイトも改善を続け、M&Aや事業多角化の進捗状況を具体的に説明している。個人投資家からの評価も高い。

IR優良企業賞 受賞企業（社名50音順）

エーザイ (06年 大賞)

常に説明責任を果たそうとする経営トップへの評価が高い。IR部門は、株主・投資家の視点を踏まえた説明や資料作成に努めている。アナリストなどの問い合わせにも迅速に対応し、関心の高かった臨床試験状況の開示も前進した。社内各部門との連携も密接で、情報の信頼性が高い。株主総会の招集通知は内容・構成とも完成度が高く、年々充実している。

資生堂 (08年 IR優良企業賞、2回目)

事業環境が悪化した状況でもIRの水準を保っている。経営トップ自ら投資家とコミュニケーションし、戦略や株主還元の説明も明解である。この数年でIRのレベルは格段に向上したが、月次売上動向の公表、四半期決算の電話会議などの改善も続けている。ESG（環境、社会、ガバナンス）の意識やCSR（企業の社会的責任）情報開示への評価も高い。

新日鉱ホールディングス (初受賞)

経済変動の影響を大きく受ける中、タイムリーな情報開示に努めている。幅広い事業の理解を促すために収益構造や事業状況分析などを説明し、施設見学会などの工夫も見られる。事業の構造変化を踏まえて新日本石油との統合を発表したが、両社トップがそろって理念や効果を説明した。IRサイトの情報も豊富で、個人投資家向けIRも強化している。

三菱地所 (初受賞)

不動産業界の中で率先してIRを実行し、高いレベルを保っている。IR部門やIR担当者への評価も高い。アナリストなどと経営トップとの対話の機会も可能な限り設けている。不動産の業況を示す指標の開示や物件の見学会なども積極的に実施し、投資家のニーズに応えている。市場の声を社内にフィードバックし、IR活動の改善につなげている。

ユニ・チャーム (初受賞)

アジアなどでの事業展開に関心が高まる中、経営トップが明確な説明をしている。IR活動ではアジア、中東事業の業況などをタイムリーに開示し、アナリストなどの評価も高い。IR部門の人数は少ないが、IR担当役員と投資家とが対話する場を設け、充実した意見交換につなげている。説明会資料やIRサイトも使いやすさが評価されている。

ローソン (初受賞)

経営トップが積極的にIRを推進している。成長戦略が明確で、ROEを意識した経営や目標設定もわかりやすい。事業環境の厳しさにも、短期と長期の両面から対応している。IR部門は、少ない人数ながらもアナリストなどの質問にていねいに回答している。IRサイトは個人投資家の関心が高い株式情報や株主還元の考え方がまとめられ、使いやすい。

IR優良企業特別賞 受賞企業

本田技研工業(ホンダ) (97年、05年 IR優良企業賞、特別賞は初)

事業環境が厳しい中でも、個人投資家から高い評価を得ている。とくに経済の先行きが不透明でも適切な情報開示をしている点やグローバルな競争力が高い点などに個人投資家は注目している。アナリスト・機関投資家からも、IRを継続する姿勢や業績見通しや為替変動の影響の開示、IRサイトやアニュアルレポート、説明会資料などへの評価が高い。

IR優良企業奨励賞 受賞企業 (社名50音順)

イー・アクセス (初受賞)

ADSL事業大手。事業環境の変化は激しいが、経営トップとCFOが業績の良し悪しに関わらずIRを続けている。説明会などでは業績向上や財務状況改善への道筋を示し、実現に結びつけた。グループ会社や関連会社に対する株主・投資家の関心も高いため、IR部門は社内外の情報収集や集約に努めている。03年東証マザーズ、04年東証一部上場。

シミック (初受賞)

臨床試験受託事業などの大手。グローバル化が進む医薬品業界において、同社が果たす役割や支援事業の内容をわかりやすく説明している。個人投資家向けIR(説明会など)の機会も多い。企業規模としては成長過程だが、IRの姿勢は前向きである。経営陣はIRの意義を理解し、開示資料やIRサイトも充実している。02年JASDAQ株式公開、04年東証二部上場、05年東証一部。

以上